国立がん研究センター
希少がんセンター

# 骨の肉腫
（ほねのにくしゅ）

https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/bone_sarcomas/index.html https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/bon

※内容を簡素に記載しております。詳しくは HP をご覧ください。

## 骨の肉腫について

骨に発生するがんには他の臓器に発生したがんが骨に転移する「転移性骨腫瘍」と骨自体からがんが発生する「原発性骨悪性腫瘍」の 2 種類があり、後者は主に肉腫と呼ばれる腫瘍です。肉腫は体中のどこにでもできるがんの一種であり、若年者に発生することが多いがんとしても知られております。骨に発生する肉腫は非常に数の少ない、いわゆる希少がんの代表です。

**骨肉腫**・・・10 代から 20 代の若年者の膝の周りや肩の周囲に発生することが多く、高齢者にも一定の割合で発症します。主な症状は痛みですが、レントゲン検査で骨に変化があらわれるまで症状が出ないことも珍しくありません。治療方法は抗がん剤治療と手術の組み合わせになります。

**軟骨肉腫**・・・主に 40 歳代以上の比較的高齢の方に発症します。好発部位は大腿骨、骨盤、上腕骨に多くみられます。治療は基本的に手術が中心です。

**ユーイング肉腫**・・・現在はユーイング肉腫ファミリー腫瘍と呼ばれ、骨以外にも体中の軟部組織にも発生します。主に 20 歳以下の若年者にみられますが、高齢者にも発生します。主な好発部位は大腿骨、骨盤骨、脊椎です。特徴的な融合遺伝子をもっていることから、以前よりも正確に診断ができるようになっています。治療は抗がん剤治療と手術を組み合わせたものが中心になります。

**骨巨細胞腫**・・・厳密には悪性骨腫瘍ではありませんが、WHO の分類でも、再発率が高いことや肺転移を生じることから中間悪性型腫瘍として考えられています。主に 20 代前後の膝周囲に好発することが多く、骨折するまで症状がないことも少なくありません。治療は手術療法が中心になっておりましたが、2014 年より切除が非常に難しい症例にはデノスマブという新しい薬が日本でも使えるようになり、現在は症例に応じて手術や薬物療法を使い分けている状況です。

## 診断について

診断には、まず年齢や発生した時期、部位をよく問診します。肉腫の診断のためには血液検査の他に、レントゲン、CT、MRI、骨シンチグラフィー、PET などの画像検査が必要です。最終的には生検という検査を行い、腫瘍組織を採取して、病理医が腫瘍の良悪性やどんな病気なのかを確認することで診断します。